

各 位

静岡大学大学院理学研究科

平成27年度より、静岡大学大学院4研究科（理学研究科・工学研究科・農学研究科・情報学研究科）が統合し、新しい大学院である総合科学技術研究科を設置することとなりました。総合科学技術研究科理学専攻の学生募集要項については、2ページ以降に掲載しておりますが、実際の出願にあたっては下記の請求方法により、学生募集要項を入手し、所定の様式により出願をお願いします。

記

学生募集要項の請求方法について

(1) 窓口で請求する場合

学生募集要項は理学部学務係で配付します。

配付開始時期は7月7日（月）からを予定しています。

(2) 郵送にて請求する場合

定型封筒（長形又は角形）の表の左下に、「大学院総合科学技術研究科理学専攻募集要項請求」と朱書きし、裏面に請求者の郵便番号、住所、氏名を記入の上、次の「返信用封筒」を同封して理学部学務係宛に送付してください。募集要項は無料ですが、郵送料についてはご負担をお願いします。

「返信用封筒」（本学からの募集要項送付用封筒）

- ・規格 角形2号封筒（33cm×23.5cm）
- ・請求者の郵便番号、住所、氏名を明記
- ・250円分の切手を貼り、折りたたんで大学に送付する封筒に入れてください。（自己推薦・一般入試併願の方で募集要項が2冊必要な方は400円分の切手を貼ってください。）

(3) 担当窓口及び請求先

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

静岡大学理学部学務係

電話（054）238-4717

平成27年度

大学院総合科学技術研究科
修士課程 理学専攻

学生募集要項

一般入試

自己推薦型入試

外国人留学生入試



静岡大学

目 次

◎静岡大学のビジョン	2
◎静岡大学の使命	2
◎理学専攻のアドミッション・ポリシー	2
◎コース別募集人員	3
■一般入試	4
■自己推薦型入試	11
■外国人留学生入試	15
□入学試験情報の提供	21
□個人情報の取り扱い	21
□長期履修学生制度について	21
□障害等のある入学志願者の受験上の配慮について	22
□専攻（コース）概要（教育研究項目）	23
□専攻（コース）紹介（主要研究内容）	25
□放射科学教育プログラムについて	30
□静岡キャンパス案内図・建物配置図	31
□入学願書等出願書類	

静岡大学のビジョン

「自由啓発・未来創生」

静岡大学は「質の高い教育と創造的な研究を推進し、社会と連携し、ともに歩む存在感のある大学」を目指します。

(詳しくは <http://www.shizuoka.ac.jp/outline/vision/mission/index.html> を参照ください)

静岡大学の使命

教 育：地球の未来に責任をもち、国際的感覚を備え、高い専門性を有し、失敗を恐れないチャレンジ精神にあふれ、豊かな人間性を有する教養人を育成します。

研 究：世界の平和と人類の幸福を根底から支える諸科学を目指し、創造性あふれる学術研究を行います。

社会連携：地域社会とともに歩み、社会が直面する諸問題に真剣に取り組み、文化と科学の発信基地として、社会に貢献します。

理学専攻のアドミッション・ポリシー

【育てる人間像】

本専攻は、高度な科学技術社会の中で、基礎科学に基づいた問題解決能力を有する人材の育成を目指します。人類のより豊かな繁栄のために、真理を探究する理学の精神が求められています。その実現に向けて、それぞれのコース分野で高度な教育研究を行います。理学の教育と研究は、社会の多様なニーズに応えるための洞察力、適応力、行動力を養うことを目的として、物事の本質的な理解と独創性に支えられた教育研究を主眼としています。これらによって、高度な技術職や研究職に必要な深い学識を身につけた人材の育成を目指します。

【目指す教育】

- 1 高い専門知識と独創的な研究能力を持つ人材の育成を目指します。
- 2 特論、演習、特別研究の有機的な関連を重視し、複数の指導教員によるきめ細かい教育・研究の指導を行います。
- 3 基本原理を重視した教育及び複数のコースにわたる共通授業によって、複眼的な視野を養い、個々の専門的問題の解決能力を高める教育を行います。

【入学を期待する学生像】

多様化する現代社会の持つ諸問題に対して強い関心を抱き、専門に偏らない幅広い視野で物事を考えることのできる意欲ある学生を求めています。特に理学的な現象に対し、それらの基本原理に根ざした深い探究心を持つ学生を求めています。

【入学に必要とされる資質・能力】

理学専攻が行う入学者選抜試験は、受験者が理学的な現象に対し、それらの基本原理に根ざした深い探究心を有しているかを判断するために行われます。一般入試および外国人留学生入試では、各コース分野に関する基礎知識と論理的思考力および英文の読解力と英語による表現力を判断する筆記試験等に加え、学問・研究に対する態度を判断する口述試験を課しています。また自己推薦型入試では、出願書類の審査による基本的資質・能力の判定に加え、各コース分野に関する深い関心と熱意など学問・研究に対する積極的な態度を面接試験により評価します。

理学専攻修士課程コース別募集人員

コ　ー　ス	講　座	募集人員
数　学	基礎数理 数理解析	12名
物　理　学	基礎物理学 物性物理学	14名
化　学	構造化学 機能化学	18名
生　物　科　学	環境応答学 生体調節学 細胞・発生プログラム学	13名
地　球　科　学	地球ダイナミクス 生物環境科学	13名
5コース		計70名

物理学，化学，生物科学及び地球科学の各コースでは，コース横断的に放射科学教育プログラムが展開されます。概要は，30ページを参照してください。

一 般 入 試

1 出願資格

次のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者及び平成27年3月までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び平成27年3月までに学士の学位を授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び平成27年3月までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び平成27年3月までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了した者及び平成27年3月までに修了見込みの者
- (6) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成27年3月までに修了見込みの者
- (7) 文部科学大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号)
- (8) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第102条第2項の規定により他の大学院に入学した者であって、本専攻において、大学院における教育をうけるにふさわしい学力があると認めた者
- (9) 本専攻が、個別の入学資格審査を行い、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成27年3月31日までに22歳に達する者
- (10) 平成27年3月で大学に3年以上在学した者であって、本専攻において、所定の単位を優秀な成績をもって修得したと認めた者
- (11) 平成27年3月で外国において学校教育における15年の課程を修了した者であって、本専攻において、所定の単位を優秀な成績をもって修得したと認めた者
- (12) 平成27年3月で外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者であって、本専攻において、所定の単位を優秀な成績で修得したと認めた者
- (13) 平成27年3月で我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了した者であって、本専攻において、所定の単位を優秀な成績で修得したと認めた者

[ただし、(10)～(13)は「飛び入学」に該当し、《注》を参照のこと。]

《注》(8)・(9)の資格で出願する場合は**事前審査を行うので、5 事前審査の内容**にしたがって出願してください。

(10)～(13)の資格で出願する場合は平成27年1月に試験を行うので、平成26年11月頃発行の「学部3年次学生を対象とする入試(飛び入学)募集要項」にしたがって出願してください。

2 コース別募集人員及び試験科目

コース	募集人員	講座	試験科目
数 学	9名	基礎数理 数理解析	筆記試験 ① 英 語 *冊子体の英和・和英辞書持込み可 ② 専 門 = 数 学 口述試験 = 筆記試験合格者のみ
物 理 学	7名	基礎物理学 物性物理学	筆記試験 ① 専 門 = 物理学 *TOEIC テストのスコアによる評価を行います。 従って、英語の筆記試験は実施しません。 口述試験 = 筆記試験合格者のみ
化 学	13名	構造化学 機能化学	筆記試験 ① 英 語 ② 専 門 = 化 学 口述試験 = 筆記試験合格者のみ
生 物 科 学	8名	環境応答学 生体調節学 細胞・発生プロゲ ラム学	筆記試験 ① 専 門 = 生物科学 *TOEIC テストのスコアによる評価を行います。 従って、英語の筆記試験は実施しません。 口述試験 = 筆記試験合格者のみ
地 球 科 学	8名	地球ダイナミクス 生物環境科学	筆記試験 ① 英 語 ② 専 門 = 地球科学 (物理学, 化 学, 生物科学からも選択解答可能) 口述試験 = 筆記試験合格者のみ

3 願書受付期間

平成26年7月22日(火)～平成26年7月28日(月) ※土日を除く
(窓口受付時間は、9時から12時30分及び13時30分から16時の間)

郵送の場合は必ず「書留郵便」とし、封筒の表面に「大学院入学願書在中」と朱書きしてください。なお、郵送の場合は平成26年7月28日(月)の16時までには必着するように送付してください。

4 願書提出先

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836
静岡大学理学部学務係 TEL (054) 238-4717

5 事前審査

「1 出願資格」(8)及び(9)の資格で出願を希望する場合は、次の書類を平成26年7月4日(金)までに上記「4 願書提出先」へ提出してください。

事前審査申請書	本専攻所定の用紙に必要事項を記入
推 薦 書	本専攻所定の用紙に出願者が在籍する大学の指導教員を含む複数の教員が所見を記入のうえ、当該学部長が推薦し、厳封したもの。
成績証明書	大学長又は学部長が作成し、厳封したもの。
あて名票	本専攻所定の用紙に必要事項を記入

※ 事前審査結果は、平成26年7月15日(火)に申請者あてに郵送により通知します。
事前審査合格者は、「3 願書受付期間・6 出願書類等」により出願書類等を提出してください。

6 出願書類等

入 学 願 書	本専攻所定の用紙に必要事項を記入してください。
入 学 検 定 料 30,000円	同封の「払込取扱票」により、郵便局の受付窓口で払い込んでください。 ※払込後の返還については、15 注意事項をお読みください。
振替払込受付証明書 (入学検定料受付証明書)	本専攻所定の用紙に必要事項を記入のうえ証明書を貼付したもの
成 績 証 明 書	出身大学長又は学部長が作成し、厳封したもの。
受 験 許 可 書	学長又は研究科長の発行したもの。(他の大学院に在学中の者。ただし、平成27年3月修了見込みの者を除く。)
返 信 用 封 筒 (1通)	本専攻所定の封筒に郵便番号・住所・氏名を明記し、82円切手を貼付したもの。(受験票送付用)
あ て 名 票	本専攻所定の用紙に、郵便番号・住所・氏名を明記してください。(合格通知書・入学手続案内送付用)
その他	物理学コースおよび生物科学コースに出願する者は、TOEIC テストの公式認定証またはスコアシートを A4 サイズの用紙にコピーし、提出してください。ただし平成23年度4月以降に受験した TOEIC テスト、もしくは平成22年度4月以降に大学在籍中に受験した TOEIC テストに限ります。なお原本については、面接時に確認しますので、受験時に必ず持参してください。

※その他、出身大学の指導教員が作成した推薦書を添付しても構いません。

7 選抜方針

《数学コース》

解析学，代数学，幾何学，数理論理学などの数学の基礎知識を活かして，さらに高度な数学的素養を身につけ，数学の研究・教育・応用のどの方面に進んでも創造性を十分に発揮できる人材を育成します。そのための能力・学力・適性などを次の試験で総合的に判断します。

(1) 筆記試験

英 語：英文の読解力及び英語による表現力を判断します（冊子体の英和・和英辞書持込み可）。

専 門：数学に関する基礎学力，論理的思考力および表現力を判断します。

(2) 口述試験

筆記試験では判断できない数学の基礎学力，論理的思考力，表現力などを判断します。この他，志望動機，将来の目標，意欲・熱意など学習・研究に対する態度も評価します。

《物理学コース》

力学，電磁気学，量子力学，統計力学などの物理学の基礎知識を活かして，さらに高度な物理的素養を身につけると同時に，具体的な物理的課題に取り組み解決していく能力を養うことにより，物理的研究・教育・応用のどの方面に進んでも創造性を十分に発揮できる人材を養成します。そのための能力・学力・適性などを，次の試験において判断します。

(1) 筆記試験

専 門：本コースにおいて，学習・研究するために必要な基礎学力を判断します。

- (2) 英文の読解力，英語での表現力やヒヤリング能力など，大学院で学習・研究を行うために必要な英語力を評価するため，これらを総合的に評価できる TOEIC テストのスコアを判定に用います。従って英語の筆記試験は実施しません。
- (3) 口述試験
専門科目の試験では判断できない，物理学の理解度や本コースにおける研究に対する適性などを総合的に判断します。

《化学コース》

学術研究の実力をもち，社会の諸問題の解決に寄与できる人材の育成をめざしています。そのために必要な能力，学力，適性などを，次の試験で総合的に判断します。

- (1) 筆記試験
英 語：科学論文の読解力，科学に関する事象の英語での表現力などを判断します。
専 門：化学に関する基礎学力及び志望する研究分野の専門的学力などを総合的に判断します。
- (2) 口述試験
志望動機や将来の目標，意欲・熱意などの学習・研究に対する態度及び基礎学力，論理的思考力，表現力などを判断します。

《生物科学コース》

生物科学の諸問題に対してマクロな視点でとらえつつ，ミクロな細胞・遺伝子レベルでも専門的に対応できる応用力豊かな人材を育成することを目標とし，修士課程で行う研究を遂行するに足る，興味と動機，基礎学力，研究上の能力などを，次の各試験を通じて総合的に判断します。

- (1) 筆記試験
専 門：本コースにおいて，研究を行うための基本となる，専門基礎知識と論理的思考力を判断します。
- (2) 英文の読解力，英語での表現力やヒヤリング能力など，大学院で学習・研究を行うために必要な英語力を評価するため，これらを総合的に評価できる TOEIC テストのスコアを判定に用います。従って英語の筆記試験は実施しません。
- (3) 口述試験
受験者が学部等において行ってきた研究内容に関する質疑応答を行い，研究についての基礎知識，理解度，論理的思考能力，表現力，考察力及び討論する力を判断します。
この他，将来の目標，意欲・熱意などの学習・研究に対する態度もあわせて評価します。

《地球科学コース》

地球科学及び環境科学の諸問題に専門的立場から対応できる人材を育成することを目標とし，修士課程で行う研究を遂行するに足る，興味と動機，基礎学力，研究上の能力などを，次の各試験を通じて総合的に判断します。

- (1) 筆記試験
英 語：論文の読解力，研究結果の英語での表現力など大学院で学習・研究を行うために必要な英語力を判断します。
専 門：本コースにおいて，研究を行うための基本となる専門基礎知識と論理的思考力を判断します。
- (2) 口述試験
受験者が学部等において行ってきた研究内容に関する質疑応答を行い，研究についての基礎知識，理解度，論理的思考能力，表現力，考察力及び討論する力を判断します。
この他，将来の目標，意欲・熱意などの学習・研究に対する態度もあわせて評価します。

8 選抜方法

合否の判定は総合点を原則とします。

9 試験日時、試験科目、配点及び試験場

コース名	平成 26 年 8 月 28 日 (木)		平成 26 年 8 月 29 日 (金)
	筆記試験		口述試験
	10:00~11:30	13:00~16:00	9:00~
数学	英語 (50 点)	専門 (100 点)	口述 (200 点)
物理学	*TOEIC テストのスコアを換算して、英語の得点 (50 点満点) としますので、筆記試験は行いません。下の (3) を参照してください。	専門 (100 点)	口述 (100 点)
化学	英語 (50 点)	専門 (100 点)	口述 (100 点)
生物科学	*TOEIC テストのスコアを換算して、英語の得点 (50 点満点) としますので、筆記試験は行いません。下の (3) を参照してください。	専門 (100 点)	口述 (100 点)
地球科学	英語 (50 点)	専門 (100 点)	口述 (100 点)

- (1) 試験場：静岡大学（静岡市駿河区大谷 8 3 6）
- (2) 口述試験（個別）の受験資格者は、筆記試験の合格者のみです。筆記試験の合格者一覧は、平成 26 年 8 月 29 日（金）の午前 8 時 30 分に、理学部 A 棟玄関に掲示により発表します。
- (3) TOEIC テストのスコア（X 点）を下記の式で換算した点数を英語の得点（Y 点）とします。
$$Y = \{(X - 250) \div 500\} \times 50$$

750 点以上は 50 点、250 点以下は 0 点とし、小数点以下は四捨五入します。
面接時に TOEIC の公認認定書またはスコアシートの原本を確認するので、必ず受験時に持参してください。ただし平成 23 年度 4 月以降に受験した TOEIC テスト、もしくは平成 22 年度 4 月以降に大学在籍中に受験した TOEIC テストに限ります。
- (4) 生物科学コースを志望する受験生は、口述試験の時に 7 分程度で卒業研究等の発表をしてもらうので準備をしておいてください。なお、A 4 用紙 5 枚以内にまとめた図表を使用しながら説明しても構いません。
- (5) 地球科学コースを志望する受験生は、口述試験の時に 10 分以内で卒業研究等の発表をもらうので準備をしておいてください。なお、図表を使用しながら説明しても構いません。

10 研究指導担当教員の選定について

出願に当たっては、『理学専攻概要（23・24頁）』及び『理学専攻紹介（25～29頁）』を参照し、自分の希望研究分野に沿った志望講座及び志望教育研究項目を決定してください。なお、事前に研究指導を希望する担当教員に問い合わせることが望ましいです。

11 合格発表

平成26年9月5日(金)の正午頃(予定)に、理学部A棟玄関に掲示するとともに、合格者には郵送により通知します。また、理学部ホームページ(<http://www.sci.shizuoka.ac.jp/>)にも掲載します。

12 入学手続き

平成27年3月中旬までに行う予定です。入学手続きの詳細(入学料・授業料の免除申請を含む。)については、平成27年3月上旬までに本人あてに郵送します。

13 入学料及び授業料

- ◆ 入学料 282,000円《平成26年度実績額》
 - ◆ 授業料 年額 535,800円(半期分267,900円)《平成26年度実績額》
- (注)① 前期分の授業料については、平成27年4月1日から同年4月30日までに納入してください。
- ② 入学手続き時に納入した入学料はいかなる理由があっても返還しません。
 - ③ 本学では、文部科学省の定める標準額に準拠することとしています。
 - ④ 在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

14 欠員補充

合格者が募集人員に満たない場合は、各コースとも第2次募集を行います。追加合格による欠員補充は実施しません。

15 注意事項

- (1) 筆記試験及び口述試験の際には、必ず受験票を携帯してください。
- (2) 出願後、提出書類の内容変更は認められません。
- (3) 一度納入した検定料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。

①検定料の返還請求ができる場合

- ア 検定料を払い込んだが、本学大学院に出願しなかった場合
- イ 検定料を誤って二重に払い込んだ場合
- ウ 出願書類に不備があり、出願が受理されなかった場合

②返還する検定料の金額

志願者本人の申し出により二重払い込み分又は全額を返還します。

③検定料返還請求の方法

上記のア又はイに該当する場合は、便せん等を使って、次の1～8を明記した検定料返還請求書を作成し、必ず「郵便振替払込受付証明書(入学検定料受付証明書)」又は「払込金受領証」を添付して、平成26年8月18日(月)〔必着〕までに静岡大学理学部学務係(〒422-8529 静岡市駿河区大谷836)へ郵送してください。

ウの場合は出願書類返却時に、「検定料返還請求書」を同封しますので、必要事項を記入の上郵送してください。

なお、返還に係る振込手数料は請求者の負担とします。

静岡大学大学院入学検定料返還請求書

- 1 返還請求の理由
- 2 入試区分（一般入試，自己推薦型入試，外国人留学生入試等）
- 3 出願しようとした大学院研究科専攻コース名
- 4 氏名（フリガナ）
- 5 現住所（フリガナ）
- 6 連絡先電話番号
- 7 返還請求額
- 8 返還金振込先
 - ・金融機関名（郵便局・ゆうちょ銀行は不可），支店名
 - ・預金種別（当座・普通），口座番号
 - ・口座名義人（フリガナ）
 - ・口座名義人が志願者と異なる場合は，志願者との続柄

- (4) 合格者のうち現在在職中の者及び平成27年4月から就職予定の者は，入学手続きの際，その所属長の『就学承諾書』を必要とするので，あらかじめ準備しておいてください。
- (5) 募集要項の請求又は入学試験に関する照会は，下記の「問合せ先」に行なってください。なお，募集要項を郵送により請求する場合は，封筒の表面に「修士課程理学専攻募集要項請求」と朱書きし，あて先を明記した返信用封筒（角形2号：33cm×24cmに，250円切手を貼付したもの。）を同封してください。
- (6) 自己推薦入試と日程の重複がありますが，併願は可能です。

《 問合せ先 》

静岡大学理学部学務係

〒422-8529 おおや

静岡市駿河区大谷836

TEL (054) 238-4717

自己推薦型入試

1 自己推薦型入試の趣旨

近年、科学技術の進展と拡がり著しく、新しい学問分野のみならず、既存の学問体系の枠を越えた学際的学問分野等の開拓も重要となってきました。こうした社会的要請に応えるべく、本専攻では学生一人一人に特徴ある教育と研究を課すことを目的として、本学出身者及び他の大学、学部出身の学生にも門戸を拓いた入試を実施することとしました。

すなわち、本学及び他大学出身者で、学問・研究に積極的かつ優秀な学生であれば、他分野を専攻した者も含め、入学を歓迎するというもので、その選抜は、出願書類の審査及び面接試験によって行う特別の制度です。

2 出願資格

平成27年3月に大学を卒業見込みの者で、次の要件を満たす者

- (1) 数学、物理学、化学、生物科学あるいは地球科学に深い関心と熱意を有し、創造的な研究活動に意欲的に取り組める者
- (2) 二次選抜に合格した場合、入学を確約できる者

3 コース別募集人員

コース	講 座	募集人員
数 学	基礎数理、数理解析	3 名
物 理 学	基礎物理学、物性物理学	7 名
化 学	構造化学、機能化学	5 名
生 物 科 学	環境応答学、生体調節学、細胞・発生プログラム学	5 名
地 球 科 学	地球ダイナミクス、生物環境科学	5 名

4 願書受付期間

平成26年7月22日（火）～平成26年7月28日（月）※土日を除く

（窓口受付時間は、9時から12時30分及び13時30分から16時の間）

郵送の場合は必ず「書留郵便」とし、封筒の表面に「大学院入学願書（自己推薦型入試 在中）」と朱書きしてください。なお、郵送の場合は平成26年7月28日（月）の16時までに必着するように送付してください。

5 願書提出先

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

静岡大学理学部学務係 TEL (054) 238-4717

6 出願書類等

入 学 願 書	本専攻所定の用紙に必要な事項を記入してください。
入 学 検 定 料 30,000円	同封の「払込取扱票」により、郵便局の受付窓口で払い込んでください。 ※払込後の返還については、14 注意事項をお読みください。
振替払込受付証明書 (入学検定料受付証明書)	本専攻所定の用紙に必要な事項を記入のうえ証明書を貼付したもの
成 績 証 明 書	出身大学長又は学部長が作成し、厳封したもの。

自己推薦書	大学時代に興味を持った内容とこれまでの学習経過，そして今後の学習及び研究に対する抱負について，任意のA4判用紙2枚以内（縦長横書き）にまとめたもの。
返信用封筒（2通）	本専攻所定の封筒に郵便番号・住所・氏名を明記し，82円分及び372円分の切手を貼付したもの。（受験票送付用及び「二次選抜受験資格の有無」通知用）
あて名票	本専攻所定の用紙に郵便番号・住所・氏名を明記してください。（合格通知書・入学手続案内送付用）

7 選抜方針

入学願書，成績証明書，自己推薦書及び個人面接の結果を総合的に判断し，合格者を決定します。

8 選抜方法

（一次選抜）

入学願書，成績証明書及び自己推薦書について総合的に判断し，『二次選抜受験有資格者』を決定します。『二次選抜受験有資格者』は，平成26年8月15日（金）までに決定し，志願者全員に通知します。本学理学部在籍者については掲示により通知します。

（二次選抜）

二次選抜受験有資格者に対して，面接試験を行います。

9 二次選抜（面接試験）の日時，試験場

日 時	平成26年8月29日（金）9：00～
場 所	静岡大学理学部（静岡市駿河区大谷836）

（1）集合場所等については，該当者あて別途通知します。

（2）生物科学コースを志望する受験生は，口述試験の時に7分程度で卒業研究等の発表をしてもらうので準備をしておいてください。なお，A4用紙5枚以内にまとめた図表を使用しながら説明しても構いません。

（3）地球科学コースを志望する受験生は，口述試験の時に10分以内で卒業研究等の発表をもらうので準備をしておいてください。なお，図表を使用しながら説明しても構いません。

10 研究指導担当教員の選定について

出願に当たっては，『理学専攻概要（23・24頁）』及び『理学専攻紹介（25～29頁）』を参照し，自分の希望研究分野に沿った志望講座及び志望教育研究項目を決定してください。なお，事前に研究指導を希望する担当教員に問い合わせることが望ましいです。

11 合格発表

平成26年9月5日（金）の正午頃（予定）に，理学部A棟玄関に掲示するとともに，合格者本人あてに郵送により通知します。また，理学部ホームページ（<http://www.sci.shizuoka.ac.jp/>）にも掲載します。

12 入学手続き

平成27年3月中旬までに行う予定です。入学手続の詳細な案内（入学料・授業料の免除申請を含む。）は，平成27年3月上旬までに本人あてに郵送します。

13 入学料及び授業料

- ◆ 入学料 282,000円《平成26年度実績額》
- ◆ 授業料 年額 535,800円(半期分267,900円)《平成26年度実績額》

(注)① 前期分の授業料については、平成27年4月1日から同年4月30日までに納入してください。

- ② 入学手続き時に納入した入学料はいかなる理由があっても返還しません。
- ③ 本学では、文部科学省の定める標準額に準拠することとしています。
- ④ 在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

14 注意事項

- (1) 試験の際には、必ず受験票を携帯してください。
- (2) 出願後、提出書類の内容変更は認められません。
- (3) 一度納入した検定料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。

①検定料の返還請求ができる場合

- ア 検定料を払い込んだが、本学大学院に出願しなかった場合
- イ 検定料を誤って二重に払い込んだ場合
- ウ 出願書類に不備があり、出願が受理されなかった場合

②返還する検定料の金額

志願者本人の申し出により二重払い込み分又は全額を返還します。

③検定料返還請求の方法

上記のア又はイに該当する場合は、便せん等を使って、次の1～8を明記した検定料返還請求書を作成し、必ず「郵便振替払込受付証明書(入学検定料受付証明書)」又は「払込金受領証」を添付して、平成26年8月18日(月)〔必着〕までに静岡大学理学部学務係(〒422-8529 静岡市駿河区大谷836)へ郵送してください。

ウの場合は出願書類返却時に、「検定料返還請求書」を同封しますので、必要事項を記入の上郵送してください。

なお、返還に係る振込手数料は請求者の負担とします。

静岡大学大学院入学検定料返還請求書

- 1 返還請求の理由
- 2 入試区分(一般入試, 自己推薦型入試, 外国人留学生入試等)
- 3 出願しようとした大学院研究科専攻コース名
- 4 氏名(フリガナ)
- 5 現住所(フリガナ)
- 6 連絡先電話番号
- 7 返還請求額
- 8 返還金振込先
 - ・金融機関名(郵便局・ゆうちょ銀行は不可), 支店名
 - ・預金種別(当座・普通), 口座番号
 - ・口座名義人(フリガナ)
 - ・口座名義人が志願者と異なる場合は, 志願者との続柄

(4) 合格者のうち、平成27年4月から就職予定の者は、入学手続きの際、その所属長の『就学承諾書』を必要とするので、あらかじめ用意しておいてください。

(5) 募集要項の請求又は入学試験に関する照会は、下記の「問合せ先」に行ってください。

なお、募集要項を郵便により請求する場合は、封筒の表面に「修士課程理学専攻募

- 集要項請求」と朱書きし、あて先を明記した返信用封筒（角形2号：33cm×24cmに、250円切手を貼付したもの。）を同封してください。
- (6) 一般入試と日程の重複がありますが、併願は可能です。

《 問合せ先 》

静岡大学理学部学務係

〒422-8529 おおや

静岡市駿河区大谷836

TEL (054) 238-4717

外国人留学生入試

1 出願資格

日本国籍を有しない者で、次のいずれかに該当する者

- (1) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び平成27年3月までに修了見込みの者
- (2) 外国において、学校教育における15年の課程を修了した者及び平成27年3月までに修了見込みの者で、所定の単位を優れた成績をもって修得したと本専攻が認めた者

《注》(2)の資格で出願する場合は**事前審査を行うので、5 事前審査の内容**にしたがって出願してください。

2 コース別募集人員

コース	講座	募集人員
数 学	基礎数理, 数理解析	若干名
物 理 学	基礎物理学, 物性物理学	若干名
化 学	構造化学, 機能化学	若干名
生 物 科 学	環境応答学, 生体調節学, 細胞・発生プログラム学	若干名
地 球 科 学	地球ダイナミクス, 生物環境科学	若干名

3 願書受付期間

平成26年7月22日(火)～平成26年7月28日(月)※土日を除く

(窓口受付時間は、9時から12時30分及び13時30分から16時の間)

郵送の場合は必ず「書留郵便」とし、封筒の表面に「大学院入学願書(外国人留学生)在中」と朱書きしてください。なお、郵送の場合は平成26年7月28日(月)の16時までに必着するよう送付してください。

4 願書提出先

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

静岡大学理学部学務係 TEL (054) 238-4717

5 事前審査

「1 出願資格」(2)の資格で出願を希望する場合は、次の書類を平成26年7月4日(金)までに上記「4 願書提出先」へ提出してください。

事前審査申請書	本専攻所定の用紙に必要事項を記入
推 薦 書	本専攻所定の用紙に出願者が在籍する大学の指導教員を含む複数の教員が所見を記入のうえ、当該学部長が推薦し、厳封したもの。
成 績 証 明 書	大学長又は学部長が作成し、厳封したもの。
あ て 名 票	本専攻所定の用紙に必要事項を記入

※ 事前審査結果は、平成26年7月15日(火)に申請者あてに郵送により通知します。事前審査合格者は、「3 願書受付期間・6 出願書類等」により出願書類等を提出してください。

6 出願書類等

入 学 願 書	本専攻所定の用紙（入学願書用紙）
外国人留学生入学願書	本専攻所定の用紙（別途請求・「14 注意事項」参照）
入 学 検 定 料 30,000円	同封の「払込取扱票」により、郵便局の受付窓口で払い込んでください。 ※払込後の返還については、14 注意事項をお読みください。
振替払込受付証明書 （入学検定料受付証明書）	本専攻所定の用紙に必要事項を記入のうえ証明書を貼付したもの
成 績 証 明 書	出身大学長又は学部長が作成し、厳封したもの。
卒業証明書又は卒業証書	実物を提出のこと。（コピー不可）
受 験 許 可 書	学長又は研究科長発行のもの（他の大学院に 在学中 の者。ただし、平成27年3月修了見込みの者を除く。）
返 信 用 封 筒	本専攻所定の封筒。郵便番号・住所・氏名を明記し、82円切手を貼付したもの。（受験票送付用）
あ て 名 票	本専攻所定の用紙に郵便番号・住所・氏名を明記してください。（合格通知書・入学手続案内送付用）
その他	物理学コースおよび生物科学コースに出願する者は、TOEIC テストの公式認定証またはスコアシートを A4 サイズの用紙にコピーし、提出してください。ただし、平成23年4月以降に受験したTOEICテストに限ります。なお、原本については、面接時に確認をしますので、受験時に必ず持参してください。

※ その他、出身大学の指導教員が作成した推薦書を添付しても構いません。

7 選抜方針

《数学コース》

解析学，代数学，幾何学，数理論理学などの数学の基礎知識を活かして，さらに高度な数学的素養を身につけ，数学の研究・教育・応用のどの方面に進んでも創造性を十分に発揮できる人材を育成します。そのための能力・学力・適性などを次の試験で総合的に判断します。

(1) 筆記試験

英 語：英文の読解力及び英語による表現力を判断します。

専 門：数学に関する基礎学力，論理的思考力及び表現力を判断します。

(2) 口述試験

筆記試験では判断できない数学の基礎学力，論理的思考力，表現力などを判断します。この他，志望動機，将来の目標，意欲・熱意など学習・研究に対する態度も評価します。

《物理学コース》

力学，電磁気学，量子力学，統計力学などの物理学の基礎知識を活かして，さらに高度な物理的素養を身につけると同時に，具体的な物理的課題に取り組み解決していく能力を養うことにより，物理的研究・教育・応用のどの方面に進んでも創造性を十分に発揮できる人材を養成します。そのための能力・学力・適性などを，次の試験において判断します。

(1) 筆記試験

専 門：本コースにおいて，学習・研究するために必要な基礎学力を判断します。

- (2) 大学院で学習・研究を行うために必要な英語力を評価するため、TOEICテストのスコアを判定に用います。
- (3) 口述試験
専門科目の試験では判断できない、物理学の理解度や本コースにおける研究に対する適性などを総合的に判断します。

《化学コース》

学術研究の実力をもち、社会の諸問題の解決に寄与できる人材の育成をめざしています。そのために必要な能力、学力、適性などを、次の試験で総合的に判断します。

- (1) 筆記試験
英 語：科学論文の読解力、科学に関する事象の英語での表現力などを判断します。
専 門：化学に関する基礎学力及び志望する研究分野の専門的学力などを総合的に判断します。
- (2) 口述試験
志望動機や将来の目標、意欲・熱意などの学習・研究に対する態度及び基礎学力、論理的思考力、表現力などを判断します。

《生物科学コース》

生物科学の諸問題に対してマクロな視点でとらえつつ、ミクロな細胞・遺伝子レベルでも専門的に対応できる応用力豊かな人材を育成することを目標とし、修士課程で行う研究を遂行するに足る興味と動機、基礎学力、研究上の能力などを、次の各試験を通じて総合的に判断します。

- (1) 筆記試験
専 門：本コースにおいて、研究を行うための基本となる専門基礎知識と論理的思考力を判断します。
- (2) 大学院で学習・研究を行うために必要な英語力を評価するため、TOEICテストのスコアを判定に用います。
- (3) 口述試験
受験者が学部等において行ってきた研究内容に関する質疑応答を行い、研究についての基礎知識、理解度、論理的思考能力、表現力、考察力及び討論する力を判断します。
この他、将来の目標、意欲・熱意などの学習・研究に対する態度もあわせて評価します。

《地球科学コース》

地球科学及び環境科学の諸問題に専門的立場から対応できる人材を育成することを目標とし、修士課程で行う研究を遂行するに足る興味と動機、基礎学力、研究上の能力などを、次の各試験を通じて総合的に判断します。

- (1) 筆記試験
英 語：論文の読解力、研究結果の英語での表現力など大学院で学習・研究を行うために必要な英語力を判断します。
専 門：本コースにおいて、研究を行うための基本となる専門基礎知識と論理的思考力を判断します。
- (2) 口述試験
受験者が学部等において行ってきた研究内容に関する質疑応答を行い、研究についての基礎知識、理解度、論理的思考能力、表現力、考察力及び討論する力を判断します。
この他、将来の目標、意欲・熱意などの学習・研究に対する態度もあわせて評価します。

8 選抜方法

筆記試験，口述試験の結果ならびに成績証明書の内容を総合して合格者を決定します。

9 試験日時，配点及び試験場

試験日	試験科目及び配点		時間
平成26年8月28日(木)	筆記試験	英語(50点) *物理学コースと生物科学コースは TOEIC テストのスコアを換算して、英語の得点(50点満点)としますので、筆記試験は行いません。下の(3)を参照してください。	10:00~11:30
		専門(100点)	13:00~16:00
平成26年8月29日(金)	口述試験(個別)	100点(ただし、数学コースは200点)	9:00~

(1) 試験場：静岡大学（静岡市駿河区大谷836）

(2) 口述試験（個別）の受験資格者は，筆記試験の合格者のみである。筆記試験の合格者一覧は，平成26年8月29日（金）の午前8時30分に，理学部A棟玄関に掲示により発表します。

(3) TOEIC テストのスコア (X 点) を下記の式で換算した点数を英語の得点 (Y 点) とします。

$$Y = \{(X - 250) \div 500\} \times 50$$

750 点以上は 50 点，250 点以下は 0 点とし，小数点以下は四捨五入します。

面接時に TOEIC の公認認定書またはスコアシートの原本を確認するので，必ず受験時に持参してください。ただし平成23年4月以降に受験したものに限りません。

(4) 生物科学コースを志望する受験生は，口述試験の時に7分程度で卒業研究等の発表をしてもらうので準備をしておいてください。なお，A4用紙5枚以内にまとめた図表を使用しながら説明しても構いません。

(5) 地球科学コースを志望する受験生は，口述試験の時に10分以内で卒業研究等の発表をもらうので準備をしておいてください。なお，図表を使用しながら説明しても構いません。

試験科目についての説明

筆記試験	英語	英語による学校教育を受けた者には，この試験を課さないことがある。
	専門	各コースの和文（英訳文付き）による出題とし，日本語又は英語で解答します。
口述試験		各コースが定める方法により実施します。（日本語能力の審査を含む。）

10 研究指導担当教員の選定について

出願に当たっては、『理学専攻概要（23・24頁）』及び『理学専攻紹介（25～29頁）』を参照し，自分の希望研究分野に沿った志望講座及び志望教育研究項目を決定してください。なお，事前に研究指導を希望する担当教員に問い合わせることが望ましいです。

11 合格発表

平成26年9月5日(金)の正午頃(予定)に、理学部A棟玄関に掲示するとともに、合格者には郵送により通知します。また、理学部ホームページ(<http://www.sci.shizuoka.ac.jp/>)にも掲載します。

12 入学手続き

平成27年3月中旬までに行う予定です。入学手続きの詳細な案内(入学料・授業料の免除申請を含む。)は、平成27年3月上旬までに本人あてに郵送します。

13 入学料及び授業料

- ◆ 入学料 282,000円《平成26年度実績額》
 - ◆ 授業料 年額 535,800円(半期分267,900円)《平成26年度実績額》
- (注)① 前期分の授業料については、入学手続き日に納入しない場合は、平成27年4月1日から同年4月30日までに納入してください。
- ② 入学手続き時に納入した入学料はいかなる理由があっても返還しません。
 - ③ 本学では、文部科学省の定める標準額に準拠することとしています。
 - ④ 在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

14 注意事項

- (1) 外国人留学生入試の受験希望者は、「**6 出願書類等**」に記載されている『外国人留学生入学願書』を別途請求してください。その際、あて先を明記した返信用封筒(長形3号:12cm×23.5cmに、82円切手を貼付したもの。)を同封してください。
- (2) 試験の際には、必ず受験票を携帯してください。
- (3) 出願後、提出書類の内容変更は認められません。
- (4) 一度納入した検定料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。
 - ① 検定料の返還請求ができる場合
 - ア 検定料を払い込んだが、本学大学院に出願しなかった場合
 - イ 検定料を誤って二重に払い込んだ場合
 - ウ 出願書類に不備があり、出願が受理されなかった場合
 - ② 返還する検定料の金額
志願者本人の申し出により二重払い込み分又は全額を返還します。
 - ③ 検定料返還請求の方法
上記のア又はイに該当する場合は、便せん等を使って、次の1～8を明記した検定料返還請求書を作成し、必ず「郵便振替払込受付証明書(入学検定料受付証明書)」又は「払込金受領証」を添付して、平成26年8月18日(月)[必着]までに静岡大学理学部学務係(〒422-8529 静岡市駿河区大谷836)へ郵送してください。
ウの場合は出願書類返却時に、「検定料返還請求書」を同封しますので、必要事項を記入の上郵送してください。
なお、返還に係る振込手数料は請求者の負担とします。

静岡大学大学院入学検定料返還請求書

- 1 返還請求の理由
- 2 入試区分（一般入試，自己推薦型入試，外国人留学生入試等）
- 3 出願しようとした大学院研究科専攻コース名
- 4 氏名（フリガナ）
- 5 現住所（フリガナ）
- 6 連絡先電話番号
- 7 返還請求額
- 8 返還金振込先
 - ・金融機関名（郵便局・ゆうちょ銀行は不可），支店名
 - ・預金種別（当座・普通），口座番号
 - ・口座名義人（フリガナ）
 - ・口座名義人が志願者と異なる場合は，志願者との続柄

- (5) 合格者のうち現在在職中の者及び平成27年4月から就職予定の者は，入学手続きの際，その所属長の『就学承諾書』を必要とするので，あらかじめ用意しておいてください。
- (6) 募集要項の請求又は入学試験に関する照会は，下記の（問合せ先）あてに行ってください。なお，募集要項を郵送により請求する場合は，封筒の表面に「修士課程理学専攻募集要項請求」と朱書きし，あて先を明記した返信用封筒（角形2号：33cm×24cmに，250円切手を貼付したもの。）を同封してください。

《 問合せ先 》

静岡大学理学部学務係

〒422-8529 おおや

静岡市駿河区大谷836

TEL (054) 238-4717

入学試験情報の提供

本専攻では、入学試験に関して、以下のとおり情報を提供しています。

(1) インターネット

募集要項等は理学公式ホームページに掲載しています。

理学HP URL: <http://www.sci.shizuoka.ac.jp/>

(2) 入試情報の開示

静岡大学大学院には、入試情報の開示制度があります。当該年度の受験者で、不合格者に対して試験成績の開示申請を、平成26年1月17日(月)から平成26年12月15日(月)の間に受け付けます。詳細は、本学学務部教務課大学院係までお問い合わせください。

学務部教務課大学院係

TEL (054) 238-4332

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

(3) 試験問題の閲覧

大学院の過去問題については、学務部入試情報閲覧室及び理学部学務係で閲覧をすることができます。

個人情報の取り扱い

個人情報の取り扱いについては、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「静岡大学個人情報管理規則」に基づいて、次のとおり取り扱います。

(1) 出願書類に記載された個人情報については、①入学者選抜(出願処理、選抜実施)、②合格発表、③入学手続き業務を行うために利用します。

(2) 入学者選抜に用いた試験成績は、今後の入学者選抜方法の検討資料の作成のために利用します。

(3) 入学者の個人情報については、①教務関係(学籍、修学指導等)、②学生支援関係(健康管理、授業料免除・奨学金申請、就職支援等)、③授業料徴収に関する業務を行うために利用します。

長期履修学生制度について

長期履修学生制度とは、職業を有しているなどの理由により、標準修業年限(修士課程では2年間)で大学院課程を修了できないと考える学生に対し、本人からの申請に基づいて修士課程においては4年間以内の計画的な履修を認める制度で、長期在学期間中は授業料年額において特別措置を受けることができます。ただし、審査の結果、認められない場合もありますので留意してください。長期履修学生制度の詳細な内容については、理学部学務係までお問い合わせください。

障害等のある入学志願者への受験上の配慮について

障害等がある入学志願者で、受験上及び修学上の配慮を希望する場合は、出願する前に本研究科と相談する必要がありますので、下記により申請して下さい。

相談の結果は決定次第、本人に連絡します。

なお、申請前に本学のキャンパス（設置場所、環境等）を見学しておくことをお勧めします。

申請期限	原則として出願の1か月前まで
申請の方法	『大学院受験上の配慮申請書』に、『障害者手帳』の写し又は医師の『診断書』を添えて申請して下さい。 なお、必要な場合は、本人又はその立場を代弁できる方（保護者、出身学校関係者等）との面談を行うことがあります。
連絡先	〒422-8529 静岡市駿河区大谷836 静岡大学理学部学務係 TEL 054-238-4717 FAX 054-237-9895

- 【注】1 郵便による照会及び『大学院受験上の配慮申請書』の用紙を請求する場合は、82円分の切手を貼り、請求者の郵便番号、住所、氏名を明記した『返信用封筒（長形3号：23.5cm×12cm）』を同封のうえ、上記連絡先まで送付して下さい。
- 2 電話による照会及び『大学院受験上の配慮申請書』を持参する場合は、土曜日、日曜日及び休日は受け付けませんので注意して下さい。

静岡大学大学院総合科学技術研究科修士課程理学専攻概要

(注)教員欄の①印は、平成28年3月31日退職予定

(注)教員欄の②印は、平成29年3月31日退職予定

*は、放射科学教育プログラム担当教員

コース	教 員		教 育 研 究 項 目		
数 学	M 1	教授 浅 芝 秀 人	基 礎 数 理	代数学(多元環の表現論)	M 1
	M 2	教授 鈴 木 信 行		数理論理学(非古典論理)	M 2
	M 3	教授 毛 利 出		代数学(非可換代数幾何学)	M 3
	M 4	准教授 久 村 裕 憲		微分幾何学(大域解析学)	M 4
	M 5	准教授 保 坂 哲 也		幾何学(幾何学的群論)	M 5
	M 6	准教授 依 岡 輝 幸		数理論理学(公理的集合論)	M 6
	M 7	講師 木 村 杏 子		代数学(組合せ論的可換環論)	M 7
	M 8	教授 板 津 誠 一	数 理 解 析	確率過程論(測度値マルコフ過程論)	M 8
	M 9	教授 田 中 直 樹		実解析学(作用素半群論・発展方程式)	M 9
	M 10	教授 清 水 扇 丈		偏微分方程式論(実解析・関数解析)	M 10
	M 11	准教授 奥 村 善 英		複素解析学(タイヒミュラー空間論・双曲多様体論)	M 11
	M 12	講師 横 山 美 佐 子		位相幾何学(軌道体のトポロジー)	M 12
物 理 学	P 1	教授 松 山 晶 彦	基 礎 物 理 学	中間エネルギー核物理学	P 1
	P 2	教授 富 田 誠		量子光学	P 2
	P 3	教授 佐 藤 信 一		数理物理学・非線形物理学	P 3
	P 4	教授 鈴 木 淳 史		統計力学・物性基礎論	P 4
	P 5	教授 松 本 正 茂		物性理論	P 5
	P 6	准教授 嘉 規 香 織		原子核理論(反応)	P 6
	P 7	准教授 土 屋 麻 人		素粒子論	P 7
	P 8	講師 森 田 健		素粒子論	P 8
	P 9	教授 三 重 野 哲	物 性 物 理 学	プラズマ科学・炭素クラスターナノ科学・宇宙科学	P 9
	P 10	教授 山 崎 昌 一		生体膜の生物物理学	P 10
	P 11	准教授 嶋 田 大 介		固体物性・超伝導	P 11
	P 12	准教授 海 老 原 孝 雄		強相関電子系の物性(磁性と伝導・超伝導)	P 12
	P 13	講師 岡 俊 彦		蛋白質の生物物理学	P 13
	P 14	講師 阪 東 一 毅		半導体光物性	P 14
化 学	C 1	教授 瓜 谷 眞 裕	構 造 化 学	環境応答生化学・情報生化学	C 1
	C 2	教授 坂 本 健 吉		有機典型元素化学・有機物理化学	C 2
	C 3	教授 岡 林 利 明		分子分光化学・構造化学	C 3
	C 4	教授 ①菅 野 秀 明		金属錯体の立体化学と溶液反応	C 4
	C 5	教授 山 本 步		分子細胞生物学・情報生化学	C 5
	C 6	准教授 河 合 信 之 輔		物理化学・反応動力学	C 6
	C 7	講師 大 吉 崇 文		核酸化学・生物化学	C 7
	C 8	講師 守 谷 誠		錯体化学・分子イオニクス	C 8
	C 9	教授 小 林 健 二	機 能 化 学	分子集合体・超分子化学	C 9
	C 10	教授 近 藤 満		機能性金属錯体の合成	C 10
	C 11	准教授 関 根 理 香		量子化学・計算化学	C 11
	C 12	准教授 加 藤 知 香		無機化学・触媒化学	C 12
	C 13	准教授 山 中 正 道		超分子化学・有機合成化学	C 13
	C 14	准教授 塚 田 直 史		有機合成化学・金属錯体触媒	C 14
	C 15	准教授 *矢 永 誠 人		生体微量金属の機能, 放射化分析, PIXE分析	C 15
	C 16	准教授 *大 矢 恭 久		ベータ放射体の化学, 核エネルギーシステムの化学	C 16
	C 17	講師 *近 田 拓 未		先進エネルギー材料化学, 放射化学	C 17
	C 18	助教 仁 科 直 子		新しい金属錯体の合成と触媒特性	C 18

コース	教 員		教 育 研 究 項 目			
生 物 科 学	B 1	准教授	木 寄 暁 子	環境応答学	植物分子生物学	B 1
	B 2	准教授	天 野 豊 己		植物におけるタンパク質工学	B 2
	B 3	准教授	徳 岡 徹		分子系統学, 形態学	B 3
	B 4	准教授	栗 井 光 一 郎		光合成生物の脂質分子生理学	B 4
	B 5	講 師	成 川 礼		光合成生物の光生物学	B 5
	B 6	教 授	山 内 清 志	生 体 調 節 学	環境分子内分泌学	B 6
	B 7	教 授	藤 原 健 智		硝化・脱窒細菌, 好塩性古細菌の生化学	B 7
	B 8	教 授	竹 内 浩 昭		動物の行動と神経系	B 8
	B 9	教 授	鈴 木 雅 一		系統発生, 生体調節機能	B 9
	B 10	講 師	石 原 顕 紀		分子生物学, バイオインフォーマティクス	B 10
	B 11	講 師	岡 田 令 子		動物生理・生化学	B 11
	B 12	教 授	塩 尻 信 義	細胞・発生プログラム学	器官形成・組織間相互作用・細胞社会学・シグナル伝達	B 12
	B 13	教 授	丑 丸 敬 史		細胞増殖制御の解析	B 13
	B 14	教 授	徳 元 俊 伸		生殖生物学	B 14
	B 15	准教授	道 羅 英 夫		共生の分子細胞生物学	B 15
	B 16	講 師	小 池 亨		細胞分化・組織形成機構, 発生生物学	B 16
地 球 科 学	G 1	教 授	②増 田 俊 明	地球ダイナミクス	構造地質学・構造岩石学	G 1
	G 2	教 授	森 下 祐 一		鉱床学・同位体地質学・二次イオン質量分析 (SIMS)	G 2
	G 3	教 授	道 林 克 禎		マントルテクトニクス, 実験構造地質学	G 3
	G 4	講 師	石 橋 秀 巳		岩石学・火山学	G 4
	G 5	講 師	生 田 領 野		地震学・測地学・固体地球物理学	G 5
	G 6	助 教	平 内 健 一		構造地質学・実験岩石学	G 6
	G 7	助 教	三 井 雄 太		固体地球物理学	G 7
	G 8	教 授	②加 藤 憲 二	生 物 環 境 科 学	地球環境微生物学	G 8
	G 9	教 授	塚 越 哲		進化古生物学 (多様性進化)	G 9
	G 10	教 授	北 村 晃 寿		古環境学	G 10
	G 11	准教授	佐 藤 慎 一		古生態学	G 11
	G 12	准教授	宗 林 留 美		生物海洋化学	G 12
	G 13	准教授	鈴 木 雄 太 郎		進化古生物学・機能形態学	G 13
	G 14	准教授	木 村 浩 之		地球微生物学・環境ジェノミクス	G 14
	G 15	助 教	池 田 昌 之		古気候学・古海洋学	G 15

修士課程理学専攻紹介

〔教員及び現在の主要研究内容〕

注1：出願に先立っては、研究指導担当教員に問い合わせることが望ましい。

注2：氏名欄の①印は、平成28年3月31日退職予定。

②印は、平成29年3月31日退職予定。

*は、放射科学教育プログラム担当教員

【数 学 コ ー ス】

基礎数理

氏 名	職名	研 究 内 容
浅 芝 秀 人	教 授	多元環の表現論。特に、自己入射多元環の導来同値分類、多元環のホール代数によるリー代数および量子群の実現。
鈴 木 信 行	教 授	数理論理学。非古典論理の意味論的研究。特にKripke意味論とその拡張による中間述語論理や様相述語論理の研究。
毛 利 出	教 授	非可換代数幾何学。特に非可換代数曲面の分類、非可換スキーム上での交叉理論、量子射影空間・量子線織曲面の研究。
久 村 裕 憲	准教授	リーマン多様体上のラプラス作用素の構造の研究。
保 坂 哲 也	准教授	幾何学的群論の研究。特に、群作用のあるCAT(0)空間とその境界の研究、およびCoxeter群とCAT(0)空間の研究。
依 岡 輝 幸	准教授	数理論理学。P(ω)/fin 上の組合せ論、測度論およびベールのカテゴリーなどの実数上のイデアルの組合せ論、強制法理論。
木 村 杏 子	講 師	スタンレー・ライスナーイデアルの研究。特に、算術階数や極小自由分解に関する研究。

数理解析

氏 名	職名	研 究 内 容
板 津 誠 一	教 授	確率過程、特に測度値マルコフ過程の研究。
田 中 直 樹	教 授	作用素半群の理論と発展方程式。無限次元空間における指数関数の構成方法および自然現象を記述する偏微分方程式の実解析的立場からの研究。
清 水 扇 丈	教 授	数理物理に現れる偏微分方程式の実解析、関数解析的手法による解析。特に最大正則性原理、流体の自由境界問題の研究。
奥 村 善 英	准教授	タイヒミュラー空間と双曲多様体の研究。特に幾何的な解釈を持つモジュライの研究。
横 山 美 佐 子	講 師	軌道体の位相的幾何構造と不変量の研究。

【物 理 学 コ ー ス】

基礎物理学

氏 名	職名	研 究 内 容
松 山 晶 彦	教 授	中間エネルギー領域の核子や中間子を用いた原子核の構造及び反応の理論的研究。
富 田 誠	教 授	量子光学及び量子エレクトロニクス分野。特に、ランダム系における光の局在と新しい量子光学現象の解明、固体のピコ・フェムト秒超高速現象に関する研究。
佐 藤 信 一	教 授	非線形・非平衡開放系における樹枝状フラクタル、荒い界面などのパターン形成とカオスなどの不規則運動に関する研究。
鈴 木 淳 史	教 授	統計力学、物性基礎論。特に、統計力学及び場の理論における可積分模型の数理的研究。
松 本 正 茂	教 授	物性理論。特に磁性と超伝導を中心とした研究。
嘉 規 香 織	准教授	中間・高エネルギーの核子・原子核散乱の相対論的枠組みによる解析、その応用としての安定・不安定原子核の核子密度分布決定に関する研究。
土 屋 麻 人	准教授	超弦理論および場の量子論。特に行列模型による超弦理論の非摂動的定式化、ゲージ重力対応、非可換幾何学、量子重力理論。
森 田 健	講 師	素粒子論。特に超弦理論、ゲージ理論、及びブラックホールの研究。

物性物理学

氏 名	職名	研 究 内 容
三重野 哲	教 授	フラーレン・ナノチューブなどの炭素クラスターの合成・物性・応用実験、ナノチューブ誘導体の研究、反応性プラズマ素過程の研究、宇宙環境科学の実験的研究。
山 崎 昌 一	教 授	生体膜の生物物理学。生体膜や蛋白質のダイナミクスや機能の研究。単一巨大リポソーム法、ペプチド/蛋白質によるポア形成、生体膜のキュービック相の相転移、蛋白質の力に対する応答など。
嶋 田 大 介	准教授	超伝導転移温度の高い超伝導体のトンネル素子を作り、その微分伝導度を測定することにより求められた電子の状態密度から、高い転移温度の超伝導体の超伝導機構を解明する研究。
海老原 孝 雄	准教授	希土類及び3d遷移金属間化合物の結晶育成と物性についての研究。新奇な物性を示しそうな物質の探索を行い、磁性と伝導・超伝導を含めた固体内の電子状態を研究する。
岡 俊 彦	講 師	蛋白質の生物物理。蛋白質の物性・動的性質およびその機能との関わりを、X線結晶構造解析やX線小角散乱などの手法を用いて解明する。
阪 東 一 毅	講 師	半導体に関する光物性及び量子光学的研究。無機及び有機半導体結晶とそれらのナノ構造における電子励起状態を光で探る、またはその電子励起状態から生じる光そのものの性質を明らかにする研究。

【化 学 コ ー ス】

構造化学講座

氏 名	職名	研 究 内 容
瓜 谷 眞 裕	教 授	環境応答, 細胞内情報伝達機構の研究。主に免疫や, がん化と関わるTORたんぱく質リン酸化酵素の研究。
坂 本 健 吉	教 授	有機ケイ素化合物の合成, 反応, および物性の研究。
岡 林 利 明	教 授	高分解能分光法を用いた短寿命分子種の物理化学的性質の研究。
①菅 野 秀 明	教 授	金属錯体の合成, 構造解析及び立体選択性の研究, 金属錯体の異性化反応の平衡論的・速度論的研究。
山 本 歩	教 授	染色体ダイナミクスおよび構造の制御機構の研究。
河 合 信之輔	准教授	大規模な分子を効率よく記述できる座標系の研究。
大 吉 崇 文	講 師	生体内における核酸の核酸結合タンパク質による機能制御機構の解明。
守 谷 誠	講 師	超分子の規則的な配列を利用した分子イオニクスに関する研究。

機能化学

氏 名	職名	研 究 内 容
小 林 健 二	教 授	水素結合やヘテロ原子間相互作用に基づく分子集合体・超分子の構造と機能探索。
近 藤 満	教 授	金属錯体を用いた機能性物質の合成と反応性に関する研究。
関 根 理 香	准教授	分子・クラスター・固体（表面）の構造・物性・反応の量子化学的研究。
加 藤 知 香	准教授	金属酸化物クラスター・金属錯体・無機系細孔物質の合成, 構造解析及び触媒作用に関する研究。
山 中 正 道	准教授	水素結合に基づくカプセル型分子の構築と機能検索, 機能性超分子ゲルの開発。
塚 田 直 史	准教授	遷移金属錯体を触媒として用いた有機合成反応に関する研究。
*矢 永 誠 人	准教授	原子核をプローブとした生体内における微量金属の機能に関する研究。
*大 矢 恭 久	准教授	トリチウム等ベータ放射体と材料との化学的相互作用の速度論的メカニズム解明研究と核エネルギーシステムへの応用。
*近 田 拓 未	講 師	先進エネルギーシステムにおける水素同位体の材料中の挙動解明と機能性材料開発。
仁 科 直 子	助 教	新しい金属錯体の合成とその触媒活性に関する研究。

【生物科学コース】

環境応答学

氏名	職名	研究内容
木 寄 暁 子	准教授	花芽誘導のしくみ, 種子貯蔵物質 (油脂) の生成・貯蔵制御のしくみ, および栄養シグナルによる成長制御のしくみに関する研究。
天 野 豊 己	准教授	植物におけるタンパク質分解システムの研究。特に部位特異的突然変異法による反応素過程の解析, タンパク質分子のしなやかなモーションおよび緩やかかつ厳しい基質認識能の解析。
徳 岡 徹	准教授	被子植物の系統の解明。生殖器官に関する比較解剖学に関する形態形質の進化の解明。
栗 井 光一郎	准教授	光合成膜糖脂質の生理機能解析。光合成生物を利用した有用物質生産。光合成生物の環境応答機構の解明。
成 川 礼	講師	光合成生物の光応答戦略に関する分子レベルから細胞・生態レベルまでの研究。光受容体を利用した光スイッチ・蛍光プローブの開発。

生体調節学

氏名	職名	研究内容
山 内 清 志	教授	甲状腺ホルモンの作用機構の研究。環境化学物質の内分泌攪乱の作用機構の研究。
藤 原 健 智	教授	微生物による異化的窒素代謝, 特に硝化・脱窒作用に関する生化学・分子生物学・生態学的研究。高度好塩性古細菌を用いた極限的環境への適応の分子メカニズムの研究。
竹 内 浩 昭	教授	脊椎動物における本能行動・学習・記憶・概日リズムの神経行動学的解析。
鈴 木 雅 一	教授	内分泌器官の形態形成機構に関する分子生物学的・形態学的解析。
石 原 顕 紀	講師	分子生物学・バイオインフォマティクスのアプローチによる環境ホルモンの甲状腺系へ及ぼす作用機序解析。
岡 田 令 子	講師	環境変化と生体内恒常性維持機構の生理・生化学的解析およびその進化。

細胞・発生プログラム学

氏名	職名	研究内容
塩 尻 信 義	教授	マウス胎児肝細胞ポピュレーションの分化ならびに肝再生メカニズムに関する研究。ウズラ胚黒色初毛致死突然変異体を用いた羽毛色素パターン形成メカニズムに関する研究。
丑 丸 敬 史	教授	細胞増殖制御機構の細胞生物学的解析。癌・老化関連因子TORの解析。染色体の分離分配制御機構の解析。
徳 元 俊 伸	教授	魚類・両生類の卵母細胞をモデル系とした卵成熟・受精の分子メカニズムの解析。ステロイド膜受容体を介したノンゲノミック反応に関する研究。
道 羅 英 夫	准教授	ゾウリムシと核内共生細菌ホロスポラの共生系およびミドリゾウリムシと共生クロレラの共生系の成立機構に関する分子細胞生物学的研究。
小 池 亨	講師	肝臓形成に関わるシグナル伝達, 組織間相互作用の分子メカニズムを, 細胞培養や組織化学, 遺伝子工学的手法を用いて解析する。

【地球科学コース】

地球ダイナミクス

氏名	職名	研究内容
②増田俊明	教授	太古代から新第三紀までの地球上すべての変形変成岩を対象とし、地下深部で起きている塑性流動変形と地球進化の研究。
森下祐一	教授	鉱床学（元素の地殻内移動・濃集過程の研究）・同位体地質学。特に、二次イオン質量分析（SIMS）による鉱石中の貴金属存在形態に関する研究。安定同位体比分析等に基づく金鉱床等鉱物資源の生成過程の解明。
道林克禎	教授	地殻とマントルの構造地質学的研究。特に、微細変形組織と結晶方位異方性から地球内部のダイナミクスとキネマティクスの解明。
石橋秀巳	講師	岩石学・火山学。特に、火山噴出物の分析および実験に基づく、マグマの物性・形成過程・噴火ダイナミクスの解明。
生田領野	講師	人工震源装置による地殻内部物性の能動監視。海底地殻変動計測システムの開発。
平内健一	助教	変形実験装置を用いた沈み込み帯プレート境界物質のレオロジー的性質の解明。
三井雄太	助教	広帯域の地表変形データ・物理モデリングなどに基づく、地球変動の研究。

生物環境科学

氏名	職名	研究内容
②加藤憲二	教授	地球環境微生物学。高温極限環境における微生物の生態と生命の初期進化。地球温暖化が海洋微生物生態系におよぼす影響の予測。地下圏を対象とした微生物生態学など。
塚越哲	教授	貝形虫類（甲殻類）の自然史。分類，比較解剖，機能形態，発生，生態等の観点から，節足動物の進化を考察。
北村晃寿	教授	第四紀の氷河性海水準変動に伴う浅海環境変動と浅海底生生物の応答様式の解明。
佐藤慎一	准教授	二枚貝類の生態・古生態学。特に人為的影響による現生生物の変化に着目して，生態学的調査や観察などを通して化石生物の古生態を考察。
宗林留美	准教授	海洋における生元素動態の解明。海洋の炭素・窒素などの循環を物質の化学的性質とそれを廻る生物活動，海洋構造等から考察。
鈴木雄太郎	准教授	絶滅生物の古生態学，特に三葉虫の研究。現在生物における各器官の特徴，および外骨格とそれらの構造上の関係を，化石生物に応用して古生態を考察。
木村浩之	准教授	海洋・温泉・地下圏の微生物生態学。オミックス解析手法等を用いた物質循環に関与する環境微生物の生理，生態，進化の解明。
池田昌之	助教	地球史イベントの実態解明。特に，中生代の日射量変動，環境変動，生物の絶滅-回復-進化のダイナミクスの解読。

放射科学教育プログラムについて

放射科学教育プログラムとは、物理学、化学、生物科学および地球科学の各コースにおいて展開される履修プログラムのことで、それぞれの専門性に加えて、「放射科学」の幅広い知識をあわせもつ高度専門職業人を養成することを目的とするものです。すなわち、理学系研究分野のみではなく他の分野においても必要となる新たな放射性核種や放射線利用法の開発や、現代社会が抱える核エネルギー問題等に正当に取り組む基礎研究を行う能力を養う等、社会の要請に答え、各分野で指導的立場になりうる人材を養成する教育プログラムです。

本プログラムの履修を希望する学生は、入学後に、研究テーマの内容に応じて、指導教員及び副指導教員と相談の上、履修を届け出ることとなります。

<注>当教育プログラム担当教員は、「静岡大学大学院総合科学技術研究科修士課程理学専攻概要」23～24ページ及び「修士課程理学専攻紹介」25～29ページの氏名に*で示しました。

